

## 研究ノート

### レオナール・フジタの古寺巡礼 —「平和の聖母礼拝堂」に至る道・フランス西部を中心に—

吉岡 泰子\*

#### はじめに

1920年代のパリ、東洋と西洋の融合した画風でエコール・ド・パリの寵児となつた藤田嗣治(1886-1968)は、第二次世界大戦中は日本で迫真的な戦争画を描き、画壇での地位を盤石なものにしたかに見えた。しかし、敗戦後、当時の日本画壇との軋轢を味わつた藤田は失望感を胸に日本を去り、1950年フランスに再入国した。1955年にフランス国籍を取得、1959年にはカトリックの洗礼を受け、日系フランス人画家レオナール・フジタとなって、ついに日本に帰ることはなかつた。

晩年のフジタは、具象画の巨匠として子どもや母子、市井の人々を題材に風俗画を描き、その画風は、ルネサンス絵画やフランドル絵画の影響を感じさせる豊かな色彩と量感、細密描写を特徴とする。また、フランス15世紀絵画等の中世美術に回帰したような宗教画も多く描いた。さらにフジタ独特の、微に入り細をうがつ個人様式が前面に打ち出され、往年の作品群とは一線を画す作風となる。1961年にパリ近郊のヴィリエ・ル・バクルに住まいとアトリエを移した後は、「マドンナのための礼拝堂」建設に向けて着々と準備を進めていった。

フジタは、1950年以降、フランス国内の中世聖堂をたびたび訪問している。また、イタリアやスペイン、ドイツ、ベルギー等を訪れた際にも、多くの聖堂や宗教美術の傑作を見学し、宗教関連の美術書を収集していた。それらの経験や、収集した蔵書を基に研究を重ね、礼拝堂建設に臨んだと考えられる。

本論では、日記と蔵書をもとに、1950年以降の古寺巡礼の様子を概観し、どのように作品に反映されたのかを探る。また、当時のフランスの宗教美術受容の様子や、フジタを取り囲む人物たちの関与を考察する。

---

\* 東海大学大学院文学研究科文明研究専攻博士課程後期2年

なお、日記は、2016年に公開された「藤田嗣治資料」（東京藝術大学大学美術館収蔵 以下、藤田資料）、蔵書は、2012年に公開された「藤田嗣治旧蔵書」（東京国立近代美術館本館アートライブラリ収蔵 以下、藤田旧蔵書）に依っている。

## 第1章 フランス古寺巡礼

### 第1節 古寺巡礼の概要

フジタは、最初の渡仏（1910～20年代）時にも古い聖堂を訪問しているが、ここでは、1950年以降の古寺巡礼について考察する。それらは、休暇中、フランス人の友人や日本人画家と共に訪れたもの、受洗を念頭にした宗教的な訪問、そして、制作用の取材を目的とした、宗教美術への強い関心を感じさせる訪問など様々である。

以下に、当時の日記等に辿り得る、フランス国内の聖堂や宗教美術の探訪を時系列で示す【表1】および【資料1】。

【表1】 訪問地一覧

時期	訪問地	同行者他
1950.8	ブルターニュ地方(カンペール、ルスコニール、トロノエン)	君代夫人、ウエルツ（知人） デッサン等沢山描く。
1951.夏	ヴィル・ヌーブル・レ・ザビニオン	君代夫人、 《ノートルダム・ヴェルヴゼ》描く。
1951.8 1953.9?	ピラ ルルド	君代夫人、ジョルジュ・グロシャン <sup>1</sup> Notre-Dame de Bon Secours のマケットを制作。いずれ礼拝堂を作るとグロシャンに言う。君代夫人の希望によりルルドへ参詣する。
1957.8	アヴィー、モワサック、サン・サヴァン、シボー、ラスコー、ポアチエ、ショーヴィニー、モンモリロン他	君代夫人、運転手
1957.12	コルマール	君代夫人、運転手

1958.3	タヴァン・シュル・レ・シュール、ル・リジェ	君代夫人 運転手
1958.8	ブルターニュ地方 (モン・サン・ミッシェル、ケルマリア)	君代夫人、運転手 金山康喜 <sup>2</sup> 、中嶋弘子 <sup>3</sup>
1959.6	ランスのサン・レミ聖堂 ランス大聖堂	ジョルジュ・プラド <sup>4</sup> フジタ、サン・レミで啓示を受ける。
1959	アンジェ城	君代夫人 運転手 黙示録のタピスリー見学
1963	ミイ・ラ・フォレの サン・ブレーズ・デ・サンブル礼拝堂	ジャン・コクトーが装飾した礼拝堂 ジャン・コクトーの葬式参列 1965年に再訪問
1964.7	オルレアン近郊のロマネスク聖堂(サン・ジャック・ドウ・ゲレ、サン・ジル・モントワール、サン・ジュネ・ラヴァルダン他) シャルトル大聖堂	君代夫人、田淵安一 <sup>5</sup> 運転手

第2節からは、上記のうち、特にフレスコ壁画を有する聖堂を中心に取り上げ、作品制作に影響があったと考えられる事柄について考察する。

## 第2節 ブルターニュ地方 1950. 8.4-11

### (1) 日記抜粋<sup>6</sup>

8月4日（金）

ブルタイギュに出立の日

等々今日たつ事にする日が来た くもりなれども天気…[夜] モンパルナス maine depart…二等の六人づめの上の段のベドに二人入れられて…九時十分発車した。[後略]

8月5日（土）

ウエルツさん一緒旅行出察〔立〕の日

八時十五分 Qiampere に着いて直ぐ Autobus で Lesconil に行く一時に平な原平凡なブルイタギュ風 一時半後千五百人の住民の漁村のベルビューホテルに入る。〔中略〕夜、港の方散歩したりする。

8月6日(日)

今日は朝から仕事スケッチ始めてお寺の方へ行って海を渡った処で二枚かく・・・又午後も何枚もスケッチした。

夕食後又散歩 三箇所で今日は8枚かいだ

8月7日(月)

午前中海岸に行って日なたぼっこ。ウエルツさん又浅い処で泳いだり、私は枯花の葉写生したりする。

午前中も写生 午后ウエルツさんと三人で海岸シャトーの方へ行って畑で私望遠鏡で見た寺の塔面白いので水を渡ったり畑を〔横〕切ったり牛や河原柳の葉を通ったりして行く 十五世紀ノお寺あり戦争すんでかくした坊さんと四人のフランス人ドイツ人に銃殺されて寺焼かれたとの事 つたがからんだ門から塔の見える処8号にかいた。〔後略〕

8月8日(火)

午前中写生二枚ばかりして昼めしたべ二時お寺の処の café の主人(戦争中空軍の人)にたのミ〔み〕てトロノーエンのカルベール見に三人でシトロエンで出かける 17キロ道のない様な田舎。海岸が遠くに見える 高地に三本十字架 幅5メートル高さ三メートル近くの十五世紀の石の彫刻百人以上キリスト一代記とてもよく大い〔に〕写真とったり寺の塔に上がったりして村々のお寺見てポンターゼを通って帰って昼ねして又夕方一枚海岸で君代とかく風出て寒い・・・〔後略〕三枚デッサン

8月9日(水)

七時のバスに丁度間に合って一人チャンペール迄行って一等の夜急行 予約席とつて 学校生徒避暑のバスにのせて貰って九時十五分に帰る

曇天となり雨上がって日も差すきょう 1日となる ・・・一枚デッサン

8月10日(木)

十時迄ねて午前私一人海岸へ出てスケッチ一枚 石段のある漁師の家かいて帰り [中略] バス七時にのってカンペールに出て八時十五分に着いて九時十五分発の一等にのった。〔後略〕一枚デッサン

八月五日 着いた 仕事せず 皆で十四枚出来た。八月六日 8枚、八月七日 1枚、

八月八日 3枚 レスコニルの仕事した数、八月九日 1枚、八月十日 1枚 [バスや列車の切符が張り付けてある。]

### 8月 11日（金）

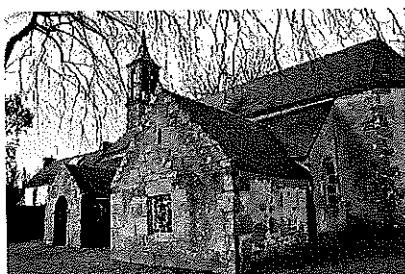
暁方汽車中月が見えたもやだかきりだかかけて京都の山々の様な静かな村を汽車は走っていく [中略] 七時モンバルナスに着いてウエルツさんと別れて七時半家に帰る。まずまず二人とも無事午前中より描き出し三号に一昨日デッサン逆光の漁師の家、洗濯する女と・・・三号ラスコニル第一番の画できた。

この日以降、フジタはスケッチをもとに作品制作に取り掛かり、「新境地の作品が作れた」と仕事上では満足した様子が日記からうかがえる。フジタはこの年の初めにフランスに再入国したばかりであり、心機一転頑張っている時期に当たる。

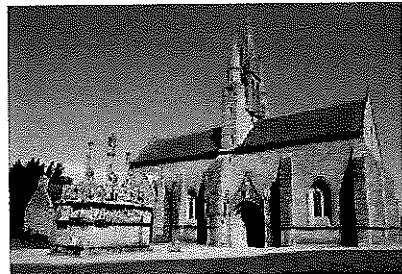
### (2) 訪れた聖堂や建造物

【表2】

場所	名称	年代・様式	特徴他
Lesconil	Chapelle de Saint-Brieux de Plonive (図版1)	15世紀	尖塔が美しく、樹木に囲まれた立地。この特徴を示す風景画作品 <sup>7</sup> から推測
Tronoën	Chapelle Notre-Dame (図版2)	15世紀 ゴシック様式	前庭に大きなカルベール
Tronoën	Calvaire (図版3)	1450~1470年頃 作られた。	ブルターニュ地方で最も古い カルベール 花崗岩製



(図版1)



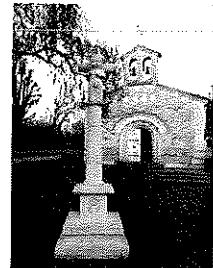
(図版2)

カルベールとは、15世紀ごろに大量につくられた石造の十字架で、ペスト被災者の鎮魂碑でもあるといわれる。ブルターニュ地方には、多くのカルベールが教会囲い地や墓地、道端などにある。トロノエンのカルベールは、4.50 m × 3.50 m の長方形のベース、2つのフリーズで構成され、3つの十字架の頂点にはキリストと2人の泥棒が刻まれている。下段二段には、「十字架の道行」「ヴェロニカと聖顔布」「最後の晩餐」「ピエタ」等キリスト伝がびっしりと彫刻され、近年はプロジェクトマッピングにより、往時の極彩色の様子を見ることが出来る。



(図版 3)

フジタの旧蔵書には、この時に購入した大型本『ブルトンのカルベール』がある<sup>8</sup>。フジタは1920年頃訪れた際には、もっと質素な海辺のカルベールを描いた作品を残している<sup>9</sup>。カルベールは、ずっとフジタの記憶に残ったモチーフであり、最晩年制作の「平和の聖母礼拝堂」に、幼子イエスのカルベールを設置した(図版4)。



(図版 4)

### 第3節 フランス西部の古寺巡礼 1957.8.13-19

#### (1) 日記抜粋<sup>10</sup>

8月13日 Bordeaux Eshe 泊まり

ボルドーへ行く・・・寺は面白く無し [同行者と別れ古寺巡礼に出発]

8月14日 Eshe-Bordeaue-Moissac

ボルドーmusee [ママ] で、1929年の《二人女》の手直しして、(ドラクロア、ボッシュ、ブルグルも見学)

夕方6h Moissac 着 すぐ夕食前寺にいく。素晴らしい十二使徒(書記)の彫刻入口裏手のクロアートルの廊下見物 本と写真買って掛け算知らぬバーサン [ママ] 老人のpapaに聞いてる。 Musee 寺の裏手・・・八時まで女二人いてゆっくり見ろとて夜アベマリアの行列 山のマリア様光る処からろーそくのプロセッション行列降りて来て君代涙出す清らかの [な] 事 [聖母マリアの被昇天の行事か]

8月15日 Moissac-Montauban-Albi-Castres-Carcassonne

9時迄又お寺の彫刻写真<sup>11</sup>沢山うつしてクロアートル切符は来たら只とて又写真。

モントーバン 10h15 分到着 Montauban musee Ingres 見物

地下室獄門の口の部屋、鉄の大ハカリ・・・ 11 時見終わり、12 h Albi ・・・ 1h-2h

大きなゴチックの寺壁画天井一杯、大理石の内部

2h-3h ロートレック Musee ・・・ 3h1/2 musee goya ・・・ 前の musee ゴチックこれも立派。

4h カルカソンに向かい山道すばらしく美しい。Albi、Casters [Castres]、川、橋、家赤屋根美しい。

8月 16 日 Carcassonne-Toulouse-Montauban- Souillac

8h 寺見て城見物案内人共 城壁一回り廻る風なり。雲は晴れて赤屋根美し。・・・

十時カルカソン出て十一時トゥールーズ 12 : 10 モントーバン

Souillac 5 時着 12 書記の寺の前の彫刻 寺の内部に入りて大分傷んで恐観

5h1/2 Beaulieu へ向い 7 時半ごろ到着

8月 17 日 Beaulieu-Lascaux-Les Eyzies

Beaulieu お寺見物写真細長い顔シャポーダージ大写しして裏にも回り、8h1/2

Souillac へ 又、ロカマドールの方へ遠回りしてゆき、地図買って 12 時 15 分前

Lascaux の洞窟に到着。2 時からの 363738 の切符番号貰って入口前の処で本 2 冊買  
い、2 時洞穴見てすばらしく・・・

Les Eyzies 向かいシャトー、川、丘美しいポプラー等、途中 musse 百姓のもの見て石多し。Turesac の寺 エレンヌ（鍛冶屋の娘）は何処か、Malzac の城のべに私が六ヶ月も居た家写真にとり 4 時に Les Eyzies に着し、Musee 見る、よくなつた。本 1 冊買 (5700、ホテルの帳場)

8月 18 日 Les Eyzies-洞窟三つ、Limoges-Saint-Gautier Saint-Savin

9h20 分、Grotte de Mothe 女一人案内アセチリン、深い 穴横ほり Grotte Font de Gaume がけあがり小道 500m 若い男案内電気なく洞穴もちらら多く大柱大広間ビゾン浮彫

10h1/2 Grotte Commbarelles ・・・ 細い穴、シメッテルカルケール多し。イノセロス、マンムス、人間浮彫・・・

1h 1/4 発リモージュへ。城多く 5h1/2 Saint-Gautier 九書記の何なし。

Saint-Savin 6 h1/2 着・・・ Église すばらしい壁画天井一面、電気あり 本 2640 坊さんのところで買って・・・ 寺の照明 13 書記の橋の方から見て塔美しい。雨あがつて十時本見て寝る。

ここへ来てよかつた。

8月19日 Saint-Savan-Chauvigny-Civaux-mont morillon-Civaux-Poitiers

(旅行終り)

老婦人パンフレットくれてみるもの教えてくれる。橋13書記写真 寺写真うつし  
・・・フィルム廻ってず、三度目にやっと望遠で沢山うつし・・・

10時近く、Chauvignyの丘の寺 何もなし古寺城の壊れたもの 広場の奥の小屋の  
彫刻、シャトーの方より下見て<sup>12</sup>

10h 1/2 Civaux ローマの基地シープレ権寺ポエチックと老婦人の言った通り  
Monmorillonの寺 フレスコありとてやっと Fresque Crypte Sainte-Catherine,  
Église Nortre-Dame 橋あり 案内人見つけ地下室自動電気で写真写す<sup>13</sup>  
1h10分前、寺の前の彫刻よろし壁画は新しい [Saint-Laurent Montmorillon]<sup>14</sup>  
2h 1/2 発 Poitiers 寺正面彫刻よし写真トルカセードラル Notre-Dam 見る  
写真みんなで6本帰りは Cinema 少し写し、巴里へ・・・

## (2) 訪問した聖堂

【表3】

場所	名称	年代、様式等	特徴他
Moissac	Abbaye Saint-Pierre	11世紀 ロマネスク修道院 聖堂	12世紀のタンパン 彫刻「最後の審判」 扉口、中央柱、廻廊と柱頭の彫刻
Albi	La Cathédrale Sainte-Cécile	14、5世紀 ゴシック大聖堂	天井画 異端アルビ派の拠点
Souillac	Abbaye Sainte-Marie	11世紀 ロマネスク 旧修道院聖堂	入口内部の浮浅彫り彫刻 モワサックのエレミアの作風に酷似
Beaulieu	Abbaye Saint-Pierre de Beaulieu sur Drdogne	12世紀 ロマネスク 修道院聖堂	タンパンの浮彫「黙示録」「最後の審判」「勝利の十字架」 浮彫の作風がモワサックに似ている。
Saint-Gaultier	Église Saint-Gaultier	12世紀 ロマネスク聖堂	扉口や、柱頭の彫刻

Saint-Savin	Abbaye de Saint-Savin sur Gartempe	11世紀末 ロマネスク修道院 聖堂	ロマネスク壁画「最後の審判」「創世記」「出エジプト記」「キリスト伝」「殉教図」 柱の大理石文様、柱頭の植物文様
Chauvigny	Église collégiale Saint-Pierre	12世紀ロマネスク 参事会聖堂	フジタは柱頭彫刻を見逃した。荒廃していたか、壁画がないためか。
Monmorillon	Église Notre-Dame	11世紀 ロマネスク聖堂	La crypte Sainte-Catherin フレスコ壁画
Monmorillon	Chapelle Saint-Laurent et Saint-Vincent	12世紀 ロマネスク礼拝堂	ファサード、幼年期の キリスト伝浮浅彫刻 フレスコ画は18世紀
Poitiers	Église Notre-Dame la Grande	12世紀 ロマネスク聖堂	華麗なファサード 特徴的な松かさ状尖塔 クリプタのフレスコ画
Poitiers	Baptistère Saint-Jean	5世紀創建 洗礼堂	洗礼堂内フレスコ画は11～13世紀　洗礼盤

フジタは、ボルドーを起点にフランス西部を回ったようである【参考資料1】。旅の前半ではロマネスク聖堂のタンパンや柱や柱頭の浮浅彫り彫刻を堪能している。しかし、画家であるフジタは、中世宗教美術の中でもフレスコ壁画に关心を寄せていく様子が後半になるとはっきりしてくる。

その他、ラスコー洞窟やレゼジー近辺の洞窟壁画見学は看過できない。レゼジーは、フジタが第一次大戦時（1915）と第二次大戦時（1940）に疎開した場所で、その度に洞窟を見学していた。最初は、ラスコー壁画の発見より以前のことである。フジタが、先史時代からの歴史を持つ表象芸術である壁画にずっと关心を寄せていた事が、記述の多さからもわかる。

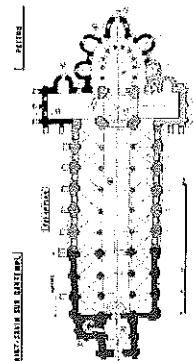
### (3) 注目すべき聖堂の概要

紙幅の関係で、注目したい聖堂のみ紹介する。

① Abbaye de Saint Savin sur Gartempe



(図版 5)



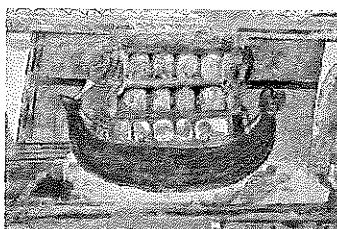
(図版 6)



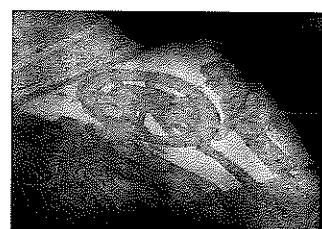
(図版 7)



(図版 8)



(図版 9)



(図版 10)

ラテン十字型のサン・サヴァン聖堂（図版 5,6）は、ガルタンプ川の岸辺にあり、身廊ヴォールトの大規模なロマネスク壁画は、世界遺産に指定されている（図版 7）。5世紀に殉教した聖サヴァンと聖シプリアンの聖遺物を奉るために、9世紀、ベネディクト派修道院がこの地に創建された。その後、ヴァイキングの襲撃、宗教戦争、革命などによる破壊、衰退、復興を繰り返し、19世紀にプロスペル・メリメ<sup>15</sup>によって保護、修復が行われた。

内部は、玄関廊に「黙示録」「再臨のキリスト」（図版 8）、階上廊には「キリスト伝」と多くの聖人像が描かれ、身廊ヴォールトには「創世記」、「出エジプト記」の壮大な物語が展開している。さらに、クリプタ（地下礼拝所）には、聖サヴァンと聖シプリアンの殉教図（図版 10）がある。

フジタは訪問して感銘を受け、「ここに来てよかったです。」とその日の日記を締めくくっている。また、アンリ・フォションの豪華本『フランスの聖堂のロマネスク絵画』を購入し、図版ページにいくつかの「見た」という書き込みを残している<sup>16</sup>。後日、研究のため本を調べた時に記入したのであろう。購入した「ノアの方舟」（図版 9）の絵葉書も残っている<sup>17</sup>。

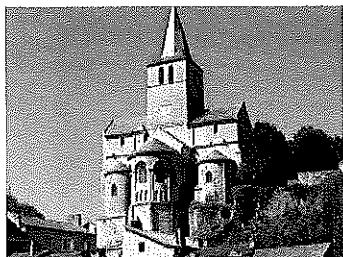
晩年に制作した礼拝堂のステンドグラスへの直接的な参照、影響は明らかだと筆

者は考える。例えば、《創世記》の、《洪水》や《ノアの方舟》(図版 11) は、それぞれサン・サヴァンの壁画「ノアの方舟」等の影響が大である。

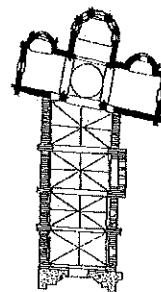
(図版 11)



## ② Monmorillon Notre-Dame



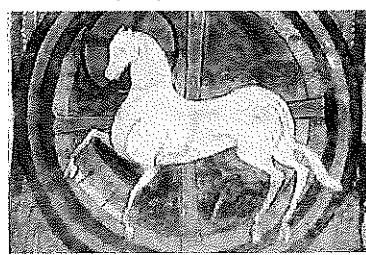
(図版 12)



(図版 13)



(図版 14)



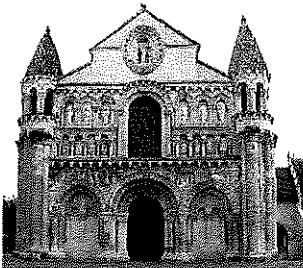
(図版 15)

リモージュの 90km 北西に位置し、ガルタンプ川の畔に建つ単廊式・ラテン十字の聖堂で、建設は 11-12 世紀に遡る (図版 12,13)。

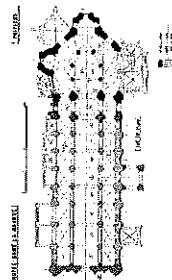
最大の見どころは、11 世紀末から 12 世紀初めに設置されたクリプタとその壁や天井に描かれた、「アレクサンドリアの聖カタリナの戴冠」を描いたフレスコ画である。色彩がよく残り朱色が映える (図版 14)。フレスコ画は、概ねロマネスク期の描画で、聖母のしなやかな身振りが目を引く。天蓋ヴォールトの最東端に描かれた白馬のような子羊も躍動的な表現である (図版 15)。

祭室のドームに描かれた聖母子の壁画は、聖母崇敬に篤いフジタには特に重要なだったと思われる。フジタが撮った写真が残っている。君代夫人と運転手アンドレと思われる人物がいる橋の上からの聖堂外観写真、そばにある Saint-Laurent et Saint-Vincent 聖堂の写真も残されている<sup>18</sup>。

③ Poitiers Église Notre-Dame la Grande



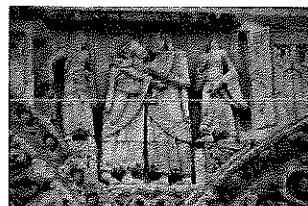
(図版 16)



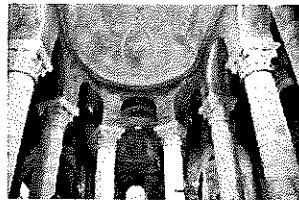
(図版 17)



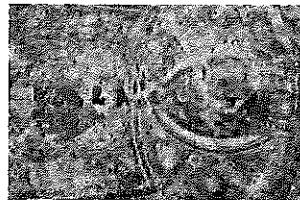
(図版 18)



(図版 19)



(図版 20)



(図版 21)

この聖堂の創建は 924 年に遡り、ポワトゥ・ロマネスクを代表する大規模な聖堂(図版 16,17)で、かつては北側に回廊、南側には参事会室があった。両脇にある鐘楼は表面が鱗状の円錐形をし、「Pomme de pin (松かさ)」と呼ばれ、フランス南西部でよく見られる様式である。

最大の見どころは、12 世紀初めに完成したファサードである。ポワトゥ地方のロマネスクで見られる「ファサード・エクラン (Façade-écran)」と呼ばれるもので、平面的な壁が豊かな彫刻で装飾されている。3 層で構成され、「受胎告知」(図版 18)に見られる、身体の動きや服の襞に特色があるもの、「エリザベト訪問」(図版 19)のように静止した平らな印象の作品群、最上層は「キリスト再臨」で、キリストは四福音書記者のシンボルに囲まれ、太陽と月を戴いている。彫像は制作後、取り付けられた。1562 年、ユグノーはファサードの大半の彫像の首を落としてしまったという。また、「受胎告知」の辺りに、本来、多色で塗られていた痕跡を見ることができる。

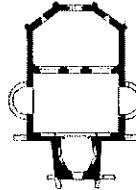
堂内の天井壁画は 1852 年に修復され、黙示録の場面を識別することができる。(図版 20,21)。クリプタには、11 世紀に遡る聖人像等の壁画も残されているが、公開さ

れていない。フジタの日記には「寺正面彫刻よし写真トル」とのみあり、内部については述べられていないが、実際は見学した事が日記の文面からうかがえる。

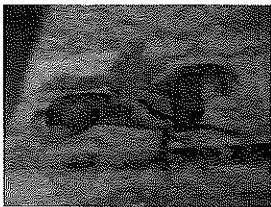
#### ④ Baptistère Saint-Jean de Poitiers



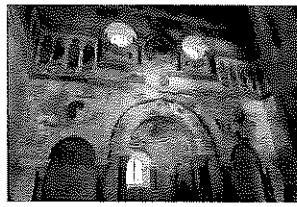
(図版 22)



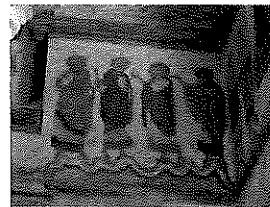
(図版 23)



(図版 24)



(図版 25)



(図版 26)

サン・ジャン洗礼堂（図版 22,23）は、元は古代ローマの邸宅だったが 5 世紀に洗礼堂に建替えられ、現存の建物は 7 世紀メロヴィング朝の時代に遡る。

堂内の四方に 12~13 世紀に制作されたフレスコ画が残る。中央に 2 人の天使に囲まれた「栄光のキリスト」（図版 25）が描かれ、向かって左下にはキリスト教を公認したコンスタンティヌス帝（図版 24）の姿がある。画風は、使徒達の立ち姿、山などの表現に、サン・サヴァン聖堂の画家の流派を感じさせる（図版 26）。19 世紀に降り壊される運命だったが、プロスペル・メリメらの中世美術復興運動によって保存、修復された。

当日の日記には記載がないが、この訪問時に購入したアンリ・フォションの著作（前出）の索引中、53 POITIERS (Vienne) Baptistère Saint-Jean に下線が引かれ、写真頁には「見た」の書き込みが残るので、ここに付加した。

### 第 3 節 タヴァン・シュル・レ・シェール、ル・リジエ 1958.3.9-10

#### (1) 日記抜粹<sup>19</sup>

3月 9 日

3 時間半くらいで[パリから]Tours 近くまで走った。・・・九時七分には Orleans へ出

て、途中雪で真白になり速力落として Tours の手前 Veretz(Loire morboise Blere より Hotel St.Honore [後略]

### 3月10日 (Lundi)

いろいろ聞いて路解らず とうとう行きたかった Tavant の九世紀古寺壁画ローマン(12世紀)見に行く。バーサン案内で寂しい三十位墓あり フランスで一番小さい□正面の壁画、地下室八本の柱とてもいい。巴里で本で見てたよりうすく明瞭ならず全体はとてもいい。

Ligueil にまちがえて行き・・・Loches に出て [中略] 又 路聞いて Le Liget 雪の大降の中の小さな堂 Chapelle 大きな門が五つ六つあるシャトーで鍵かり雪の森畠ぬけて見に行く [画が] 天井なし 上ぱりに画これも上々(本で見た)写真フラシでよく写して こんな処にくる人はいないと思う [後略]

### (2) 訪問した聖堂

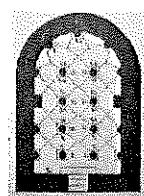
【表4】

場所	聖堂名	年代、様式	特徴等
Tavant	Église	11世紀	サンチャゴ巡礼路
	Saint-Nicolas	ロマネスク聖堂	クリプタ:12世紀フレスコ画 アプシス:11世紀末フレスコ画
Le Liget	Chapelle	12世紀 ロマネスク	円形の礼拝堂の壁
	Saint-Jean	修道院礼拝堂	フレスコ画

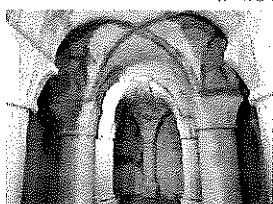
#### ① Saint-Nicolas



(図版 27)



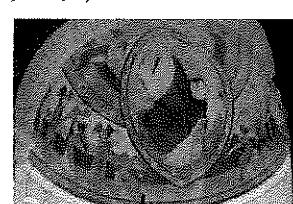
(図版 28 クリプタ)



(図版 29)



(図版 30)



(図版 31)

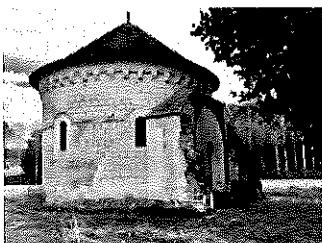
トゥールーズから 50 km 南西に位置する、前庭に墓地がある小さなラテン十字の教区教会である（図版 27）。

クリプタ（図版 28,29）に残された 12 世紀の壁画は、躍動感があり、かつ神秘性を漂わす。フジタ訪問時には既に世界的に有名だった。その題材は、「キリスト伝」（図版 30：「冥府降下」）、「アダムとエバ」「ダニエル」、「肉欲と怒り」、「冬と春」、「天使」、「巡礼」、「徳と邪悪」、「聖女たち」など多岐に渡っており、3 人以上の画家の手になる。直接外から巡礼が入れる扉も設置され、地域の領主の墓か、巡礼誘致の聖遺物のための礼拝堂であろうという。何らかの理由で製作中に中断し何の記録も残っていない。

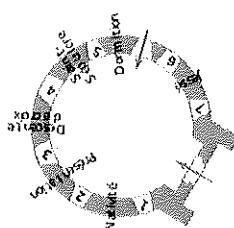
アプシスの 11 世紀末の「栄光のキリスト」（図版 31）は、オルレアン近郊にあるサン・ジル・ドゥ・モントワールのアプシスに描かれた軽やかな天使や四福音書記者のシンボルを想起させ、同じ流派の画家集団の存在を感じさせる。

## ② Le Liget, Chapelle Saint-Jean

(図版 32)



(図版 33)



(図版 34)



(図版 35)



(図版 36)

1178 年にイギリス王ヘンリー 2 世は、神と聖母マリア、洗礼者ヨハネのための聖堂をリジエに寄進したが、そこには隠修士たちが先住しており、この小さな円形の礼拝堂は既に存在していたと考えられている（図版 32,33）。

南側の入り口のすぐ左に「エッサイの木」があり、その向こうに、「受胎告知」と「ご訪問」があったはずだが、身廊建設の時に破壊された。「降誕」、「神殿奉獻」、「十字架降架」（図版 34）、「キリストの埋葬と聖女たち」（図版 35）、そして最も傑出し

たロマネスク美術の一つである「聖母の死」(図版 36)がある。窓の側面、「聖母伝」の上部にも聖人が多く描かれているが、損傷が激しい。

建物の外観は、プランこそ異なるが、オルレアン近郊にある身廊が失われたサン・ジル・ドゥ・モントワール(後出)(図版 48)に酷似していると思われる。

この二つの古寺巡礼は、フジタが事前に調べたロマネスク壁画を現地で実見するという目的を持ったものであろう。その研究には、藤田旧蔵書にある『フランスの教会堂のロマネスク Fresco 壁画』<sup>20</sup>や『フランスの教会堂のロマネスク絵画』(前出)が、また『ゾディアック叢書』<sup>21</sup>も使われたであろう。雪の中、田舎の道を迷いながら、わざわざ探し訪ねたことからも、フジタがロマネスク壁画に強い関心を持っていたことがわかる。

#### 第4節 ブルターニュ地方 モン・サン・ミッシェル、ケルマリア 1958.8.12~14

##### (1) 日記抜粋 <sup>22</sup>

8月 12日 (Mardi) 旅行 Mont Saint-Michel

田淵 スペイン

金山誘って遠出のこと十二時 Hotel より三人で Mont Saint-Michel へ向ふ 途中 Caen 口より下の道へ変じて Mont Saint-Michel に着 夕方大変な auto 人ぞろぞろ・・・金山も広子さんと来た 夕食・・・土産店坂道に一杯にかたづけもので大変一々中に入れるのも大変 いい二階 海灰色砂丘遠く・・・

8月 13日 (Mercredi) Mont Saint-Michel· Kermaria· Brela· Campalle

Mont Saint-Michel の寺見た[中略]

せめて地獄の Fresco 見ることにして曇りの道 Plonha 三キロ Chapelle de Kermaria an Iskuit 1915 年以来見てとてもよしフリシ [ミ] チーフ びっこ [ママ] の老婆案内

Cheron 時代の滝すっかり変わって賑やか・・・ Bre [per] 島へ行って・・・二百年も海岸昔ののろし上げた・・・立派になり家できて魅力なし [後略]

8月 14日 (Jeudi) 旅行 帰宅 Launballe· Dinan· Paris

9h 1/2 すぎ三人出発 ブルタイギュの昔の町下りて見物写真、市、子牛、豚、家具屋の技、広場等・・・ musee 見て古臭くて [後略]

## (2) 訪問した聖堂

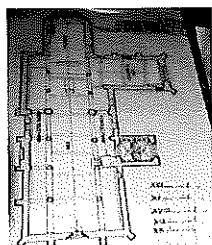
【表 5】

場所	聖堂名	年代、様式等	特徴他
Mont Saint-Michel	Abbaye du Mont Saint-Michel	11~12世紀 カロリング様式 ノルマン、ロマネスク、ゴシック様式複合	ベネディクト派 修道院、世界遺産 サンチャゴ巡礼路の起点のひとつ
Kermaria an Iskuit	Chapelle de Kermaria	ロマネスク、ゴシック複合 13~15世紀	「死の舞踏」壁画

Chapelle de Kermaria an Iskuit



(図版 37)



(図版 38)



(図版 39)



(図版 40)



(図版 41)

1460 年頃建てられたこの聖堂（図版 37,38）は、ペストなどの疫病が蔓延した中世末期に、フランス北部やドイツ、イタリア等の聖堂や納骨堂に描かれた「死の舞踏」壁画のひとつで知られている。1488~1501 年に、高さ約 1.3m の死神（死者）と様々な身分の死にゆく人々が手に手を取ってダンスをする様子が、身廊のアーチ上部に描かれた（図版 40,41）。18 世紀に漆喰で塗りつぶされていたが、1856 年に明るみに出された。さらに、堂内には、多くの聖人像や、聖母子像が奉られ、中世末期の庶民の聖人崇敬を忍ばせる。

フジタは、この聖堂を少なくとも 2 回訪れている。写真も多数撮影した<sup>23</sup>。「死の

「舞踏」壁画をはじめ、堂内の聖人像も古めかしく、聖堂の外にはこの地方独特のカルベール（図版 39）が設置され、礼拝堂を建設する際に参考となる様々な要素を備えた聖堂である。フジタは自分の礼拝堂のステンドグラスに「死の舞踏」を採用した。

### 第 5 節 オルレアン近郊 1964.7.15

フジタが建設した礼拝堂の当初計画では、堂内を自分の画いた油彩の宗教画で装飾する予定だった。しかし、実際には、初めてのフレスコ壁画に挑戦したのである。そこにどのような経緯があったのかを暗示するような、古寺巡礼の記録が日記に残っている。

#### (1) 日記抜粹<sup>24</sup>

7月 12 日

T E L 田淵 オルレアンの先き chapelle 四つ見るものありとて… 15 日朝 7 時から出かける事にした。

7月 15 日 酷暑 Loire の chapelle 見物 田淵と

7 時半、3 人と運転手 Andre でロワールに行く。

先ず代 [ママ] 一に Saint-Jacques des Guérets に行って鍵借りて入り 壁画見て久しぶりに満足 外の十字架や水口 [車] 等アリいいお寺シャペルだ。

Vendome で休んで お寺見てとてもいい 緑とコバルトのビードロ [ステンドグラス]、うす茶と灰サンセバスチャンのビードロ。シャペルの寸法巾 4 メートル高さ 2 [?] メートル奥行 9m

Saint-Gilles de Montoires とてもよし 壁画もよくのこって 芝生でピクニックして…

Saint-Ggenest de Lavardin で大口事 [大仕事か] 沢山壁画柱の上にもあり 柱の上の彫刻等も見て

もう一つ café で鍵か [り] る処へ行って田淵も初めての処 奥の丸ドームだけに壁画あり。

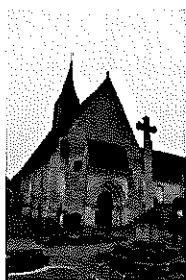
300Km 位走ってシャートルで又お寺お振りしてろーそく挙げて 6 時半

#### (2) 訪問した聖堂

【表 6】

場所	聖堂名	年代、様式等	特徴他
Saint-Jacques des Guérets	Église Saint-Jacques	12世紀 ロマネスク聖堂	サンチャゴ巡礼路 フレスコ画で有名 木製船底天井
Vendome	Chapelle Saint-Pierre La motte ?	11世紀末 ロマネスク聖堂	Vendome はサンチャゴ巡礼路にある中世の都市 身廊が失われた聖堂
Montoires sur le Loire	Chapelle Saint-Gilles	12世紀 ロマネスク聖堂	サンチャゴ巡礼路 Le Loire (La Loire の支流) 端にある廃寺、保存状態の良いフレスコ画、ピエール・ロンサールの隠れ家
Lavardin	Église Saint-Genest	11世紀末 ロマネスク聖堂 建築様式は複合的	サンチャゴ巡礼路 柱、壁面に多くのフレスコ画、古い柱頭、木製天井 隣の丘に中世の城跡、聖堂もユグノー戦争跡
Areines	Église Notre-Dame	11世紀末 ロマネスク聖堂	サンチャゴ巡礼路 奥のドームにのみ壁画 木製船底天井
Chartres	Cathédrale Notre-Dame de Chartres	12、13世紀 初期ゴシック様式	サンチャゴ巡礼路 聖母マリア巡礼地

## ① Saint-Jacques des Guérets



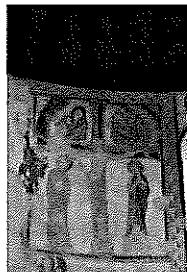
(図版 42)



(図版 43)



(図版 44)



(図版 45)



(図版 46)

この聖堂は、シンプルな単廊式聖堂である(図版 42, 43)。内部は木製船底天井で、身廊の壁面には壁画が多く残る(プランの番号部分がフレスコ壁画)(図版 43, 44)。白の下地に濃淡の褐色、明るい緑や青、薄い赤の透明感のある色調で、中でも明るい青が美しい。繊細で穏やかなタッチの「磔刑」(図版 45)、「栄光のキリスト」(図版 46)とその下には「最後の晩餐」、その他、聖ジャックの殉教図等が描かれている。それらは 1890 年に白い漆喰の下から発見され、保存状態のよいロマネスク壁画としてよく知られていた。

フジタは、村の小規模なロマネスク聖堂のたたずまいや壁画に満足した。フレスコ壁画の構成も参考になったと考えられる。帰宅後、フレスコ画の枠組み装飾や福音書記者のシンボルを、自分のフレスコ画作品の中に取り入れ、また、典型的なキリスト磔刑図の右下で嘆くヨハネのポーズも、礼拝堂のステンドグラス《聖女ベアトリス》のポーズに反映させている。

## ② Chapelle Saint-Pierre la motte (図版 47)

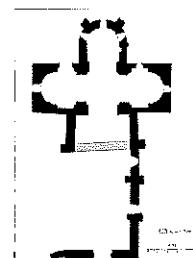
この聖堂は、ヴァンドームの最も古いロマネスク聖堂で、聖歌隊席と祭室のみが残っている。フジタの記録したサイズからこの聖堂を想定した。フジタが絶賛したステンドグラスは、現在は残っていない可能性がある。(図版 47)



## ③ Chapelle Saint-Gilles de Montoirs sur le Loire



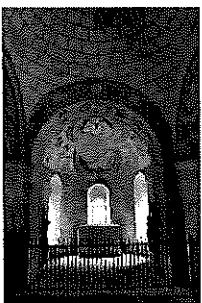
(図版 48)



(図版 49)



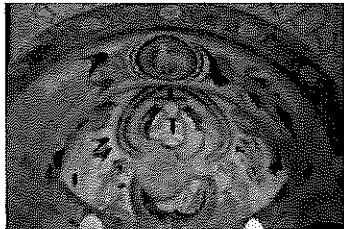
(図版 50)



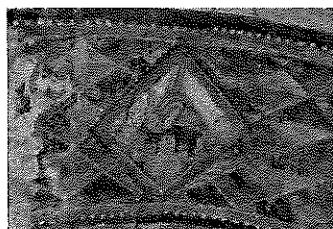
(図版 51)



(図版 52)



(図版 53)

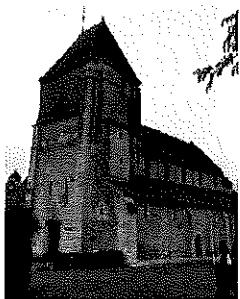


(図版 54)

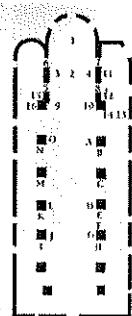
サン・ジル礼拝堂は、路地の奥にひっそりと残る廃寺である（図版 48）。脇のル・ロワール川の氾濫で 1.2mほど地面に埋まっている。ラテン十字の後陣と翼廊（図版 49,50,51,52）にそれぞれ 11 世紀末～12 世紀の Fresco 画が残っている。後陣（図版 51, 53）は、四福音書記者のシンボルとマンドゥラを支える天使達に見守られて再臨した「栄光のキリスト」で、白地に黄、褐色の濃淡、黒、赤で彩色され、軽やかにマンドゥラを支えて舞う天使たちの伸びやかなポーズが目を引く。南翼廊（図版 52）はペテロに鍵を与えるキリスト、北翼廊は使徒達に教えを授けるキリストである（図版 50）。アーチには、キリスト教の象徴（犠牲の子羊、神の手、双魚等）（図版 54）や騎士像がよく残っている。

ここでもフジタは写真を撮り、田淵は、細い路地の奥の小さな入り口にむかうフジタ夫妻の後姿を写真に撮っている<sup>25</sup>。フジタはこの廃寺をとても気に入った。神やキリスト、福音書記者の象徴、天使の飛翔、 Fresco 画の画法や色彩も参考になっただろう。フジタの礼拝堂のファサードや、小祭室入り口上部、浮き彫り彫刻にも、犠牲の子羊や神の手、双魚等が採用された。

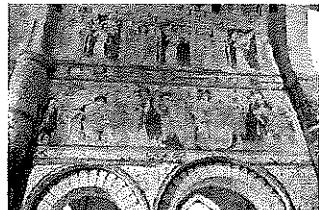
④ Église Saint-Genest de Lavardin



(図版 55)



(図版 56)



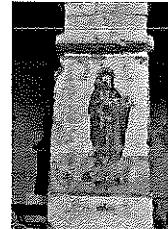
(図版 57)



(図版 58)



(図版 59)

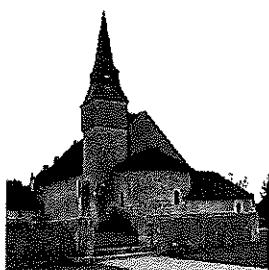


(図版 60)

サン・ジュネ聖堂(図版 55,56)は、ロマネスク様式の聖堂をベースに、ゴシック、ルネサンス、近世の様式まで混在し、幾度も破壊と修復を受けたことが外壁の古い石材の再利用からも伺える。内部は、制作時期の異なるフレスコ壁画が広い範囲(図版 56 の番号部分)に残され、「キリスト伝」(図版 57,58,59)、聖人像(図版 60)、騎士像など多岐にわたる。柱頭彫刻も古いものが残る。

フジタはびっしりと描かれたフレスコ壁画に驚いた様子だ。キリスト伝の「洗足」(図版 58)、「洗礼」(図版 59)の場面は、自分の礼拝堂にも採用している。沢山の聖人像の表象も、礼拝堂のステンドグラスの参考になったと考えられる。

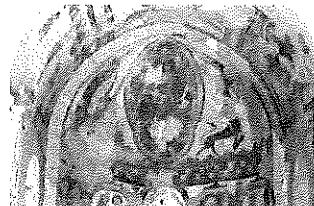
⑤ Église Notre-Dame d'Areine (図版 61)



(図版 61)



(図版 62)



(図版 63)

この聖堂は、筆者がこの地域のロマネスク聖堂を調べた中で、壁画が後陣にだけ残る（図版 62）という事と、シャルトルへの道からそれほど外れていないという理由によって推定した。「降臨のキリスト」（図版 63）、聖人、騎士等のフレスコ画が所狭しと描かれている様子だが、劣化が著しい。

ロワール川流域は、ロマネスク壁画の宝庫である。周辺には大規模な修道院聖堂から、地域の豪族や騎士達が建設した小規模な礼拝堂まで、ロマネスク聖堂が数多く残る。フジタの礼拝堂のイメージ作りに最適な地域だったであろう。【資料 2】

## 第 2 章 古寺巡礼の背景

### 第 1 節 ロマネスク再発見

フランスでは、19世紀のナショナリズムを背景とした、中世の聖堂建築や宗教美術などを、自国の貴重な歴史的、考古的文化資産として再評価し修復する運動が、プロスペル・メリメ等によって起こった。その後、両世界大戦の間も各地の中世聖堂の修復、ロマネスク壁画や中世美術品の再発見、再評価がなされた。

一方、1920年代後半からピカソやミロ等、抽象表現主義の画家たちによるカタルーニャ地方のロマネスク美術再評価が、自国の反体制運動と結びつき、芸術家や知識人の関心を呼んでいた。

同時進行的に、1930年代の西欧の学術界においてはロマネスク美術の研究が進み、中世美術史の進展がみられた。この時期の吉川逸治によるサン・サヴァン修道院聖堂のフレスコ壁画研究は、フランスにおいても注目されていた。

第二次大戦後の1954年には、ブルゴーニュ地方にあるラ・ピエール＝キ＝ヴィール修道院の修道士アンジェリコ・シュルシャン（1924-2018）が立ち上げた、フランス各地のロマネスク聖堂や中世美術を紹介するシリーズ『ラ・ニュイ・デ・タン』（ゾディアック叢書）が発刊された。それは一般市民にも人気を呼び、1960年代のロマネスク・ブームの一端となった。1961年には大規模なロマネスク美術展がパルセロナと聖地サンチャゴ・デ・コンポステーラで開催され、大好評であったという<sup>26</sup>。

さらに1950年以降には、柳宗玄ら日本の中世美術研究者や文化人がフランスを訪れている。ロマネスク関連書籍の出版も盛んになり、日本でもロマネスクの美が注目されていた。

フジタはこのような環境の中で、多くの聖堂を訪問し、中世の宗教美術に魅了されたのであろう。

## 第2節 「聖なる芸術」運動と、フジタを取り囲むフランス人

1919年、複数の工房を持ち、「共同」制作することを重視した画塾「アトリエ・ダール・サクレ」が、モーリス・ドニ（1870-1943）らによって創設され、宗教芸術の刷新が図られた。さらに、1935年、「聖なる芸術」を牽引する『アール・サクレ』誌が発刊され、第二次大戦による中断の後、1950年に運動が再開された。運動の中心人物、ドミニコ会の神父マリ=アラン・クチュリエ（1897-1954）は、時代を代表する巨匠を登用してモダンな礼拝堂建設を推進していく。共同制作された「アッシー礼拝堂」（1950）、アンリ・マティス（1869-1954）の「ロザリオ礼拝堂」（1951）、ル・コルビジエ（1887-1965）の「ロンシャン礼拝堂」（1955）が良く知られる。「聖なる芸術」の実践の中で、多くの芸術家が聖堂の装飾に取り組んでいることを、フジタは十分承知していた。

さらに、より身近にあって、フジタのカトリックへの改宗や、宗教美術への志向を理解し支えた人々がいた。1950年代前半、特に親交のあったジョルジュ・グロジャンをはじめとするフジタの支援者、フジタも参画した『黄金の聖書』の出版者ジョセフ・フォレ<sup>27</sup>、受洗に際しても精神的な支えになった晩年のパトロン、ランスのシャンパン会社社長ルネ・ラルー<sup>28</sup>、礼拝堂建設の協力者でパリ時代からの友人のジョルジュ・プラド、ネオ・ロマネスク様式の「平和の聖母礼拝堂」を設計した、モーリス・クロジェ<sup>29</sup>などである。

## 第3節 協力者、田淵安一

田淵安一（1921-2009）はフジタが再渡仏した翌1951年にパリに留学、画家として修業を開始するとともに、ソルボンヌ大学美術考古学研究所にも籍を置いた。渡仏後1、2年はフランス内外の見学に時間を費やし、1952年から1953年には日本人の画家仲間と共に、ロマネスク聖堂を多数巡っている。その後、ヨーロッパや日本で活躍する抽象表現主義の画家として活躍する一方、世界各地を探訪し西欧文明の原点を探る学者肌の人物でもあった。

フジタのアトリエのある、ヴィリエ・ル・バカル村に近いヴォアラン村に住んでい

た田淵は、年齢や画風の隔たりを越えてフジタと親交を深め、フジタの礼拝堂建設の夢を、芸術家の立場からも良く理解し協力した人物だった。田淵はフジタのキリスト教への帰依について、「カトリックに改宗されたというのは、僕の考えでは、カトリックの儀式の美的なところにとても惹かれた・・・宗教美術から入られた。美的なものと宗教的なものが一致することはありますよね。宗教美術を通して、目から、カトリックに入っていくということはよくわかります。」と語っている<sup>30</sup>。

そして、礼拝堂の装飾の方向性が定まるきっかけとなった、1964年7月のオルレアン近郊のロマネスク聖堂訪問に同行した田淵は、その後も、フジタのフレスコ技法研究にも様々な協力をした。後年、田淵はある日本人美術評論家に、実際にフジタから協力を依頼されたと述懐している<sup>31</sup>。いつ、どんな会話が二人の間であったのかは不明である。しかし、田淵の経験や経験を考えると、既にキリスト教美術に関心が深かったフジタが、自分の礼拝堂にネオ・ロマネスク様式を採用し、高齢にもかかわらず、初めてのフレスコ画に挑戦したのは、至極当然の成り行きだったろう。

### おわりに

本稿において概観した、1950年以降にフジタが訪問した聖堂は、フランスの中央部から西部にかけてのものが多い。そして、1952年あたりから礼拝堂の建設を具体的に考え始めていることが理解できた。それまでは、取材してきた古い聖堂を、風景画や人物画の背景として描き込むことが多かったように見受けられる。

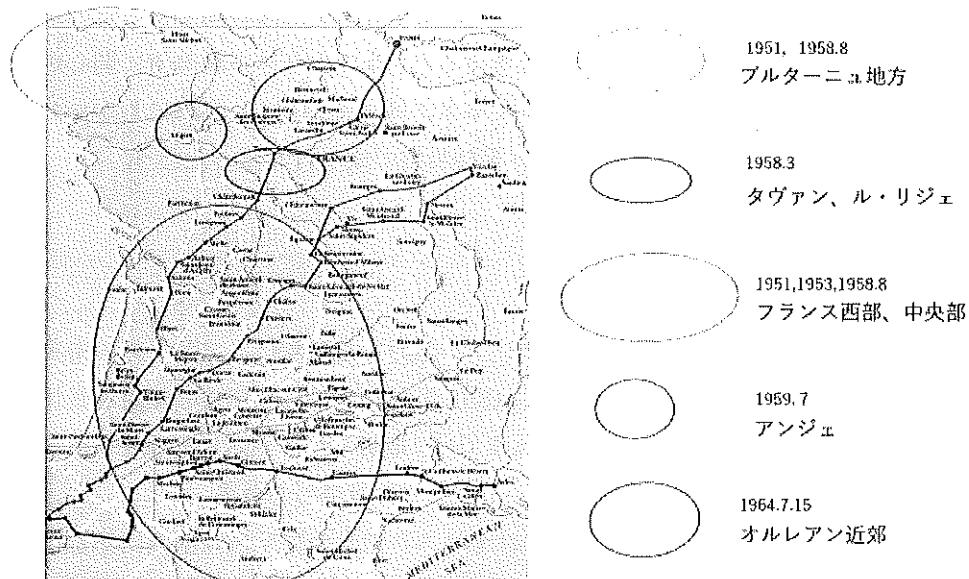
また、画家であるフジタの関心が、とくにロマネスク聖堂のフレスコ壁画にあることもわかった。収集した蔵書から参照しただけでなく、実際に聖堂を訪問し、拝観する中で、画家の鋭い観察眼を通して多くを吸収していた事がうかがえる。さらに、これらのフランス古寺巡礼の間には、イタリア、スペイン、ベルギー、スイス等の聖堂や美術館の訪問も行っている。

フジタは芸術家として、中世宗教美術、特にロマネスク期の宗教美術に深い共感を持っていたと思われる。具体的には、①ゴシックのように洗練されすぎていない、地方色にあふれ、エネルギッシュでプリミティフな魅力②中世の人々の宗教的なバックボーンを強く感じさせる徹底した表現力③フジタの礼拝堂建設の姿勢にも表れているが、中世宗教美術に原点を持つ職人技能集団の総合的な聖堂づくりへの志向等である。

フジタが、自他ともに認める職人気質の画家だといつても、アトリエにこもって作

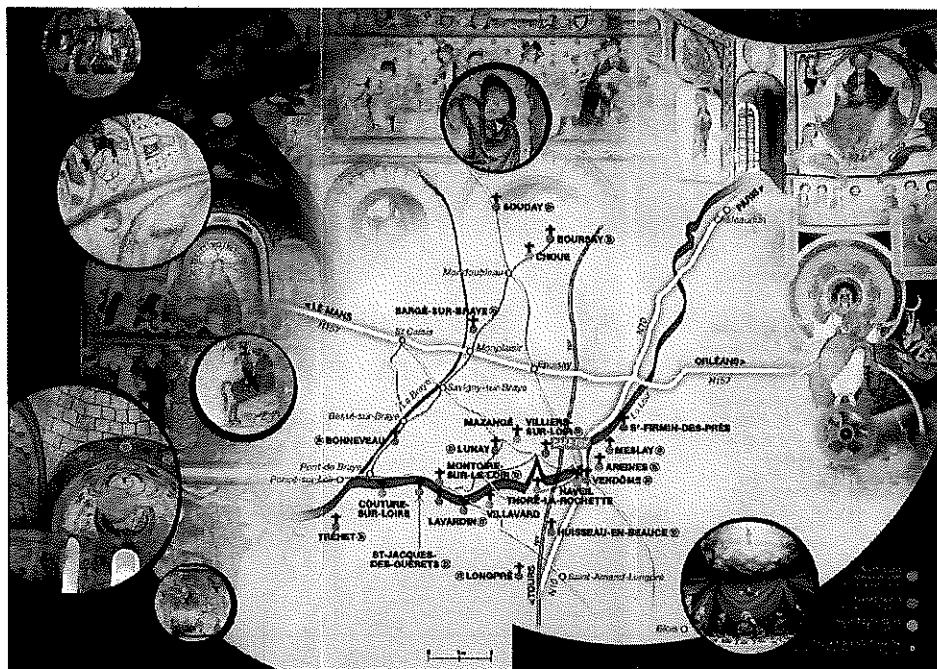
品を多産しただけではなくことは、彼の画家人生を辿ると明らかである。生涯を通して世界各地を巡り、多くのものを観察、吸収し、時空も超えて新境地を開拓してきた。晩年にたどり着いた精神性と画業の集大成が、中世に回帰したような「平和の聖母礼拝堂」の全ての装飾に反映しているといつても、過言ではないだろう。

【資料 1】フジタの古寺巡礼区域概略図



(フランス国内のサンチャゴ巡礼路解説図：Fr-Rds-R800sanntyago を元に筆者作成)

## 【資料 2】オルレアン近郊のフレスコ壁画が残るロマネスク聖堂



(ヴァンドーム市が発行した広報用リーフレット 2017 年)

## 参考文献・資料

## &lt;一次資料&gt;

- ・「藤田嗣治資料」東京藝術大学大学美術館収蔵
- ・「藤田嗣治旧蔵書」東京国立近代美術館本館アートライブラリ収蔵
- L Foujita || B4y || 15: Henri Waquet, *Les Calvaires Bretons* (Encyclopedie Alpina illustrée), Paris, 1937.
- Foujita || B4y || 36: Fresques romanes des églises de France, introduction de Paul-Henri Michel, Paris, Chêne, 1949.
- Foujita || B4y || 46: Henri Focillon, *Peintures romanes des églises de France*, photographies de Pierre Devinoy, Paul Hartmann, Paris, 1950.
- Foujita || B4y || 18: Poitou roman (La nuit des temps:5), Introduction de René Crozet, texte d'Yvonne Labande-Mailfert, photographies et inédites de G. Franceschi, P. Kill, F.

Michel et R.G. Phelifeaux, Zodiaque, La Pierre-qui-Vire,  
1957.

Foujita || B4y || 185 : Touraine romane (La nuit des temps:6), Odilon Aymard  
(et al.) , photographies inédites de R.G. Phelipeaux,  
Zodiaque, La Pierre-qui-Vire, 1957.

〈その他の文献〉

- ・金沢百枝『ロマネスク美術革命』新潮選書 新潮社 2015年
- ・林洋子『藤田嗣治 手紙の森へ』集英社新書ヴィジュアル版 集英社 2018年
- ・湯原かの子『藤田嗣治 パリからの恋文』新潮社 2006年
- ・『FOUJITA TSUGOUHARU ET ECOLE DE PARIS 藤田嗣治とエコール・ド・パリ』「猫と女とモンパルナス 藤田嗣治」(昭和43年版) 増補改訂版 ノーベル書房 昭和59年
- ・『没後40年 レオナール・フジタ展』カタログ北海道新聞社 2008年

図版出典

図版番号	名称	出典
1	Chapelle Saint-Brieux de Plonivel	<a href="https://www.penhars-infos.com/article-chapelle-de-bretagne-115307087.html">https://www.penhars-infos.com/article-chapelle-de-bretagne-115307087.html</a>
2	Chapelle Notre-Dame Tronoën	<a href="https://ja.m.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:ND_de_Trono%C3%A9_ABn_Chapelle_et_calvaire_2.jpg">https://ja.m.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:ND_de_Trono%C3%A9_ABn_Chapelle_et_calvaire_2.jpg</a>
3	Calvaire	<a href="http://www.tronoen.net/">http://www.tronoen.net/</a>
4	平和の聖母礼拝堂	筆者撮影 2017.7.31
5, 7, 8, 9, 10	Abbaye de Saint-Savin sur Gartempe	筆者撮影 2017.10.23
6	同上プラン	<a href="https://fr.wikipedia.org/wiki/Abbaye_de_Saint-Savin-sur-Gartempe">https://fr.wikipedia.org/wiki/Abbaye_de_Saint-Savin-sur-Gartempe</a>
11	《創世記》	ランス市立美術館提供
12, 14, 15	Monmorillon Notre-Dame	<a href="https://fr.wikipedia.org/wiki/Fichier:Montmorillon_-Crypte_Sainte-Catherine..jpg">https://fr.wikipedia.org/wiki/Fichier:Montmorillon_-Crypte_Sainte-Catherine..jpg</a>

13	同上プラン	<a href="https://peach.pagesperso-orange.fr/romanes/montmori.htm">https://peach.pagesperso-orange.fr/romanes/montmori.htm</a>
16,18,19	Église Notre-Dame la Grande Poitiers	<a href="https://fr.wikipedia.org/wiki/%C3%89glise_Notre-Dame_la_Grande_de_Poitiers">https://fr.wikipedia.org/wiki/%C3%89glise_Notre-Dame_la_Grande_de_Poitiers</a> 他
17	同上プラン	<a href="http://www.philippe-gavet.fr/07/01/02/index.html">http://www.philippe-gavet.fr/07/01/02/index.html</a>
20, 21	同上	筆者撮影 2017.10.23
22	Baptistère Saint-Jean de Poitiers	筆者撮影 2017.10.23
23	同上プラン	<a href="http://millenaire1.free.fr/408_2_3_baptistere_st_jean.html">http://millenaire1.free.fr/408_2_3_baptistere_st_jean.html</a>
24,25,26,	同上	<a href="https://fr.wikipedia.org/wiki/Baptist%C3%A8re_Saint-Jean_de_Poitiers">https://fr.wikipedia.org/wiki/Baptist%C3%A8re_Saint-Jean_de_Poitiers</a>
27	Tavant Église Saint-Nicoras	<a href="http://touraine/tavant/5/">touraine/tavant/5/</a>
28	同上プラン	<a href="http://www.litteratur.fr/communes-de-">http://www.litteratur.fr/communes-de-</a>
29,30,31,	同上	筆者撮影 2017.10.24
32,34,35, 36	Le Liget Chapelle Saint-Jean	<a href="https://fr.wikipedia.org/wiki/Chapelle_Saint-Jean_du_Liget">https://fr.wikipedia.org/wiki/Chapelle_Saint-Jean_du_Liget</a>
33	同上プラン	<a href="#">File:Liget chapelle StJean fresques.svg</a>
37,38,39, 40,41	Chapelle de Kermaria an Iskuit	<a href="http://www.infobretagne.com/plouha-kermaria-an-iskuit.htm">http://www.infobretagne.com/plouha-kermaria-an-iskuit.htm</a>
42,44,45, 46	Saint-Jacques des Guérets	筆者撮影 2017.10.25
43	同上プラン	<a href="http://architecture.relig.free.fr/saint_jacques_guerets.html">http://architecture.relig.free.fr/saint_jacques_guerets.html</a>
47	Chapelle Saint-Pierre la motte	<a href="http://www.campiello-venise.com/chateaux-de-la-loire/vendome/chapelle_saint_pierre_la_motte.htm">http://www.campiello-venise.com/chateaux-de-la-loire/vendome/chapelle_saint_pierre_la_motte.htm</a>
48,50,51, 52,53,54	Chapelle Saint-Gilles de Montoires	筆者撮影 2017.10.25

49	同上プラン	Zodiaque, Val de Loire roman, p.292.
55,57,58, 59,60	Église Saint-Genest de Lavardin	筆者撮影 2017.10.25
56	同上プラン	<a href="http://architecture.relig.free.fr/lavardin2.htm">http://architecture.relig.free.fr/lavardin2.htm</a>
61,62,63	Église Notre-Dame d'Areine	<a href="http://police.essexchurches.info/Areines.htm">http://police.essexchurches.info/Areines.htm</a> <a href="http://www.art-roman.net/index.htm">http://www.art-roman.net/index.htm</a>

- <sup>1</sup> ジョルジュ・グロジャン (Georges Grosjean 生没年不詳) フランス人ジャーナリスト。終戦後日本でフジタと知り合った。: 林洋子『藤田嗣治 手紙の森へ』集英社新書ヴィジュアル版 2018年 35頁。フランスに帰還後もフジタを支援し、フジタは、1953年の夏ピラにあるグロジャンの別荘で過ごした際、礼拝堂の模型を作成し礼拝堂建設の夢を語ったという。グロジャンの計らいで君代夫人の希望するルルドへの参拝も実現した。:カタログ『没後40年 レオナール・フジタ展』189、190頁
- <sup>2</sup> 金山康喜 (1926-1958) は、東京大学大学院で学ぶ傍ら猪熊弦一郎が主宰する会に参加。1951年、田淵安一と共に渡仏後は、ソルボンヌ大学法學部に在籍しつつ油絵制作に励み才能を發揮した。1950年代フジタと親交があった。
- <sup>3</sup> 中嶋弘子 (1959-不明) 服飾デザイナー。当時パリに留学していて金山の友人だったか。
- <sup>4</sup> ジョルジュ・プラド (Georges Prade 生没年不詳) はフジタと1928年来の知り合いでパリ14区の参事会員。ランスのシャンパン・マム社の広報担当。礼拝堂の建設や式典、広報の段取りを一手に引き受けた。フジタの洗礼式では君代夫人の代父となり、フジタの死にも立ち会った。
- <sup>5</sup> 田淵安一の紹介は、第2章、第2節に詳しく記載
- <sup>6</sup> 藤田資料 FT00528  
・日記中の□は判読できなかった文字、〔 〕内は筆者の補足である。・日記中の君代夫人に関する記述は必要最低限にとどめた。関連のない事柄についての記述も省略した。  
・地名や聖堂名などの表現は整えた。以下の日記部分も同様である。
- <sup>7</sup> 『L'Église près de Lesconil』1950、水彩、油彩
- <sup>8</sup> 藤田嗣治旧蔵書 LFoujita || B4y || 15 : Henri Waquet, *Les Calvaires Bretons*, (Encyclopédie Alpina illustrée), Paris, 1937.
- <sup>9</sup> 『十字架の見える風景』1920 油彩、キャンバス 33.0×23.8 cm 岐阜県美術館寄託
- <sup>10</sup> 藤田資料 (FT00541, 00542)
- <sup>11</sup> 藤田資料(FT03486)
- <sup>12</sup> 藤田資料 (FT 不明) 各1枚あり
- <sup>13</sup> 藤田資料(FT03788) クリプタ天井等
- <sup>14</sup> 写真：藤田資料(FT01989)
- <sup>15</sup> プロスペル・メリメ (Prosper Mérimée, 1803 - 1870) 文学者、法律家。1834年フランスの歴史記念物監督官として、ポワチエの聖ヨハネ洗礼堂など多くの歴史的建造物の保護にあたった。
- <sup>16</sup> 藤田旧蔵書 Foujita || B4y || 46: Henri Focillon, *Peintures romanes des églises de France : photographies de Pierre Devinoy, Paul Hartmann*, Paris, 1950.
- <sup>17</sup> 藤田資料 FT4466,089
- <sup>18</sup> 藤田資料 FT03788,01989 他
- <sup>19</sup> 藤田資料 FT00533
- <sup>20</sup> 藤田旧蔵書 Foujita || B4y || 36 : *Fresques romanes des églises de France*,

introduction de Paul-Henri Michel, Paris, Chene, 1949.

<sup>21</sup> 藤田旧蔵書 Foujita | | B4y | | 184 : *Poitou roman* (La nuit des temps'5), Introduction de Rene Crozet, texte d'Yonne Labande-Mailfert, photographies et inédites de G. Franceschi, P.Kill, F. Michel et R.G. Phelifeaux, Zodiaque, La Pierre-qui-Vire, 1957.

<sup>22</sup> 藤田資料 FT00547,00548

<sup>23</sup> 藤田資料 FT03502,03511,03730

<sup>24</sup> 藤田資料 FT00561,00562

<sup>25</sup> 藤田資料 FT03642,00835

<sup>26</sup> 金沢百枝『ロマネスク美術革命』新潮選書 新潮社 2015年 54頁他

<sup>27</sup> ジョセフ・フォレ (Joseph Foret 1901-1991) は、フジタも参画した『黄金の聖書』(アポカリプス) を出版した人物。

<sup>28</sup> ルネ・ラルー (René Lalou) は、フジタとは 1956 年のポール・ペトリデスでの個展で知り合った。「平和の聖母礼拝堂」建設を全面的に支援した。フジタの洗礼の代父。

<sup>29</sup> モーリス・クロジエ(Maurice Clauzier 1897-1984)建築家。礼拝堂を設計、施工した。

<sup>30</sup> 湯原かの子『藤田嗣治 パリからの恋文』新潮社 2006年 267頁

<sup>31</sup> 『FOUJITA TSUGOUHARUET ECOLE DE PARIS 藤田嗣治とエコール・ド・パリ』  
「猫と女とモンパルナス 藤田嗣治」(昭和 43 年版) 増補改訂版、ノーベル書房 昭和 59  
年 208 頁